

特別展

「品川から世界へ サムライ海を渡る —幕末明治の日本と外交使節団—」

期 間	平成 26 年 10 月 12 日（日）～11 月 30 日（日）	43 日間
会 場	1 階ロビー 第二展示室 小講堂	
入館者数	3,658 名	

〔開催趣旨〕

徳川幕府は、嘉永 6 年（1853）6 月のアメリカ使節ペリーの来航と「日米和親条約」の締結を機にアメリカやイギリスなどの諸外国にも窓口を開いた。さらに安政 5 年（1858）には、長崎・横浜・箱館に加え、江戸・大坂の開市と兵庫・新潟の開港が計画された。この条約批准のため、幕府は関係諸国に使節を送ることにした。これが万延元年（1860）の遣米使節団である。その後、幕府は文久元年（1861）の遣欧使節団など都合 4 回の使節団を派遣した。さらに明治 4 年（1871）の岩倉使節団の派遣により日本は急速に近代化を果たすことができた。

今回、品川から出発した万延・文久元年の使節団の史料を中心に展示するとともに、幕末の使節団及び品川区に墓所がある岩倉具視・伊藤博文が参加した岩倉使節団の史料を展示した。

〔展示概要〕

序章 航海への憧憬

0-1 長崎海軍伝習所から築地軍艦操練所へ 0-2 神戸海軍操練所の開設と挫折

第一章 幕末の条約締結と遣米使節の派遣

1-1 ペリー来航と「日米和親条約」締結 1-2 幻の品川開港と安政の五ヶ国条約
1-3 遣米使節のアメリカ見聞録

第二章 開市・開港延期交渉使節がみたヨーロッパ

2-1 開市・開港延期交渉への船出 2-2 大君の使節の西欧歴訪
2-3 使節団の帰国と御殿山公使館焼き討ち事件

第三章 その後の使節団 —幕府瓦解と明治政府樹立の狭間で—

3-1 生麦事件と横浜鎖港談判使節団の派遣
3-2 小野使節団、幕府の再起をかけた渡米
3-3 プリンス・トクガワとパリ万国博覧会 3-4 岩倉使節団の米欧回覧

最終章 江戸湾品川沖の地理的環境を探る

4-1 使節団の発着地・品川沖の地理的環境

〔記念イベント〕

映像で楽しむ特別展 一学芸員による解説一

日 時：10月26日（日）①午前10時～午前11時30分

②午後2時～午後3時30分

講 師：富川 武史、中野 光将（品川歴史館学芸員）

会 場：講堂

参加人数：55名

お茶を楽しむ会（協力：品川区華道茶道文化協会）

日 時：11月3日（祝）①午前10時～正午 ②午後1時～午後3時

会 場：書院

参加人数：77名

特別展記念講演会「サムライたちが海を渡るまで 一新・幕末条約考一」

日 時：11月15日（土）午後2時～午後4時

講 師：嶋村 元宏（神奈川県立歴史博物館主任学芸員）

会 場：講堂

参加人数：60名

特別展記念イベントバスツアー「幕末明治 外交の舞台をめぐる」

日 時：11月23日（日）午前9時～午後5時

見 学 地：ペリー上陸地・日米和親条約締結地（以上、神奈川県横浜市）

ペリー久里浜上陸地・ペリー記念館、観音崎公園、住友重機械工業株式会社横須賀造船所浦賀ドック、ヴェルニー公園（以上、同横須賀市）

講 師：富川 武史、中野 光将（品川歴史館学芸員）

山本 詔一（横須賀開国史研究会会長・浦賀ドック案内）

参加人数：42名

〔販売物、発行図書〕

特別展図録『品川から世界へ サムライ海を渡る 一幕末明治の日本と外交使節団一』

販売価格 1,000円（A4 約180頁）

特別展記念「マーブルクッキー・マドレーヌ」

（協力：社会福祉法人福栄会・かもめ第一工房）

販売価格 200円 期間中売上 215個

〔広報〕

広報しながわ10月1日号、屋外看板、ポスター・ちらし、歴史館ホームページ等